

CONFINTEA, V ロゴと生涯学習原理

谷 川 守 正

〔抄 録〕

1997年第5回国際成人教育会議ロゴについて成人学習の基礎的要素の読み書き、問い分析を活用し、表題を手引きにしてロゴの形と色を解説する作業は、ロゴの生涯学習原理を解明することができ、またそれ自体が創造的学習の実践である。

ロゴは成人教育を開発する概念枠組みであり、成人学習の実践、研究、運動の統合と多様性尊重の生涯学習的原則を成立させ、1997年ユネスコの「成人学習に関するハンプルグ宣言」の主要事項によって肉付けられる。

また非言語的ロゴの普遍性は情報化した国際社会において成人学習によってどの言語、文化、地域からも自由に成人学習ロゴに接近し、自らの言語で語り、また文字化もできる。

それは成人学習を見直す生涯教育・学習概念の図式化であり、生涯教育の統合性、継続性、創造性、地域性を裏付ける。

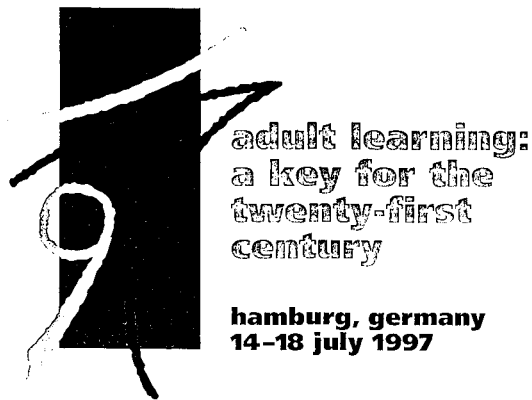
キーワード CONFINTEA, 生涯学習, ロゴ

はじめに

96年自宅のファックスで受信した第5回国際成人教育会議（略称 CONFINTEA, V）ロゴ（図1）は、A4、8頁の案内状の表紙に英文の表題と頁を分ける形で大きく描かれ、色の濃淡から元の表紙はカラー刷と分かったが、モノカラーのため、色の特定はできなかった。そして最終頁にハンプルグにあるユネスコの教育研究所の説明の左下に、ロゴの簡単な説明が細字37字で添えられ、作者がオーストラリア人の Michael Smitheram であり、普遍的で、個性的な手の筋によって文化的多様性と学びの喜びを表現するロゴであることを知った。

しかしそのロゴは同じ表紙下部のユネスコのロゴに対して異質であるといえる。掌の筋のアイデアの面白さにもかかわらず、その分かりにくさに疑問をもった。一般にロゴは全国生涯学習フェスティバルのシンボルマーク「学びー」¹⁾のように一目瞭然にイベントの趣旨を表す。しかしこの会議ロゴはユネスコのホームページ（図2）で配色が分かっても、その意味は分かりにくい。そこでロゴの意味を解説するために、先に京都竜安寺のつくばいの解説²⁾と同じ方

Fifth International Conference
on Adult Education (CONFINTEA)



a UNESCO Conference
in co-operation with
international partners

図 1



ADULT LEARNING A KEY FOR THE 21st CENTURY



5th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON ADULT EDUCATION

14-18 July 1997 in Hamburg, Germany



図 2

法によって、85年パリ会議の「学習権宣言」と97年ハンブルグ会議の「成人学習宣言」に共通する学習権の定義から導くことのできる成人学習の基礎的学習要素³⁾のみを用いることにした。

85年の「学習権宣言」にはすでに76年ユネスコの「成人教育の発展に関するナイロビ勸

告」にあった「生涯教育」,「生涯学習」の用語はまったく見られず⁴⁾,それらは改めて97年の「成人学習に関するハンプルグ宣言」において新しい装い⁵⁾で再登場する。

97年の宣言⁶⁾の第3章(成人教育と成人学習の定義)と第12章(生涯を通しての教育を受ける権利と学ぶ権利の定義)には76年の勧告における成人教育の定義と85年の宣言における学習権の定義がそれぞれ発展的に継承されている。

われわれはこのロゴの解明を通して,76年の「成人教育」,85年の「学ぶ権利」,97年の「成人学習」への展開過程において,従来曖昧とされた生涯教育・学習概念を成人学習の実践的研究によって明らかにしたい。

第1章 ロゴを読む成人学習の創造力

第1節 第5回国際成人教育会議案内状のロゴと会議ホームページのロゴ

ハンプルグ会議の特色の一つは情報化時代にeメールが会議の情報交換に大きな役割を果たし,会議を全世界に開き,双方向の意見交換が活発に行なわれたことである。宣言文に修正が重ねて加えられて,eメールは数版を重ねた。われわれが研究対象にした「成人学習に関するハンプルグ宣言」文はその最終第6版である。そこには会議のロゴもユネスコのロゴも表紙を飾っていない。ただその宣言文の表題が英文で印字されているだけである。

しかし会議の案内状とホームページの表紙にそれぞれ大きさと位置を異なるロゴがあり,その解読作業を通して国際的な情報に一種の情報操作が加えられ,会議とその宣言文のイメージに若干の影響を与えたことによって,情報化時代の国際会議にも留意すべき点があったことを指摘しておきたい。

われわれは96年に配布された会議案内状の表紙と終了後のホームページを比較して明らかになったことは,主に次の3点である。

1. 案内状では英文の主題と並んで同じ大きさに中央部に隣り合って位置付けられたロゴがホームページの画面では右上隅に小指の第1関節までの大きさに縮小され,青色に印字されたと見られる案内状の表題が黒字に変えられ,中央上部に大きく位置を占める。
2. 案内状の中央下部の黒色に描かれたユネスコのロゴが,画面では青色に変わり,会議のロゴの反対の位置に置かれた。
3. NGOの参加を促す a UNESCO Conference in co-operation with international partners が削除され,それに代わって赤色の英文の開催期間・都市の下に加盟国のと見られる国旗が長方形に集積された。もちろんその中に加盟国であり,政府代表を送った日本の「日の丸」がある。

以上の三点の変更によって会議のイメージは大きく変えられ,ロゴは一種のアクセサリーのように見え,NGO等への参加要請の面が薄れ,正式の加盟国政府代表中心の会議のイメージ

を色濃くする。

それとともに情報操作は 85 年パリ会議の「学習権宣言」にも及んだ。ユネスコは第 1 回からの会議報告書を e メールで世界に発信したが、学習権宣言の記事は 67 頁と 68 頁に掲載されている。しかし会議最終日に学習権宣言が纏められ、最終報告書に付けられたが、会場に配布された英・仏文の原案に「学習権宣言」と明記され、宣言文の全文を掲載した **Prospect** 誌 12 月号 pp. 441-2 には表題の下に「会議によって満場一致で採択された宣言」と付言された。

しかしユネスコの情報サービスは「学習権宣言」を単に「会議の宣言」とし、「満場一致」のコメントを削除したため、大部の最終報告書の単なる付属文書の印象を強くする。

それ故にわれわれは両宣言について十分な比較研究が必要になる。それによっていくつかの見落としが邦訳に発見された。学習権の定義における成人学習の基礎的要素と基本的要素の区別、男女の表記の逆転（women and men）、the act of learning と to learn との区別等がそれである⁷⁾。他方「ハンプルグ宣言」では学習権が新しく生涯教育・学習権の概念に代わり、その要素が基礎と基本とともに 2 項目づつ削除された。

「ハンプルグ宣言」の冒頭にある「われわれハンプルグに集まったこの会議の参加者」が主文の主語であること、第 11 章に会議直前の 5 月 2 日にこの世を去った P・フレイレを記念した⁸⁾98 年からの「識字 10 年」運動について宣言文には異例の呼び掛けをしたこと、第 22 章に社会福祉に関する「サランカ声明」に言及したこと、そして末尾の第 23～7 章の冒頭に共通する主語の「われわれは」に政府代表以外の NGO などの代表が含まれていること、が特筆される。

ロゴは会議の趣旨に制約を受けながらも、創造的作品であり、一定の社会的評価を受け、会議の PR として多くのメッセージを内包した高度な学習文化財であるが、それは創造的機能を持ち、それに有効に接近するためには学習機能が必要であるにもかかわらず、その文脈が十分認知されず、折角の創造的学習機能が埋もれたままである。

このロゴの学習には少なくとも、成人学習の前述の 4 つの基礎的学習要素が必要であるが、それを前提にすれば、創造的学習の機会が開かれ、4 つの要素の働き合いによって創造的学習の基礎が完成する。

ロゴの学習に 4 つの要素の有機的結合がなければ、創造的学習は持続的発展を確実にすることは困難になる。そこに偶然の発見、思付きによる気付きはあっても、創造性の持続的発展には程遠いといわざるをえない。

第 2 節 会議ロゴの読取り

ユネスコの第五回国際成人教育会議ロゴをユネスコのホームページ（図 2）から読み取るとき、まず文字を読むかのように、図形の形に注目すると、青色の 9 と赤色の 7 とそれぞれ読

める曲線の組合せを会議の開催年の97年の意味に読み取ることは極めて簡単である。ロゴはこのように一般に一目瞭然にその意味が読み取れる。

しかし97の曲線の残りのそれらの上に右肩上がり描かれる黄色の曲線と中央の黒い短冊の意味は、さまざまに想像することはできるがいずれも決め手を欠く。そこでそれは普通のロゴとは性格が異なることが分かる。それは単に読むだけでなく、読み手に問いを促す。そこで図形を97と読んだことにまず方法論的検討が求められる。

97の読取りにおいて形についてだけで、色は問われず、しかも3本の曲線の内の2本の組合せが全体図から分析され、意味が読まれている。われわれはただ読むだけでなく、さらに分析して意味付けるのである。なぜ9に見える形が青で、7が赤かと問うならば、画面上の反対側にユネスコのロゴが青色で描かれていることに気付く。そして7の赤色は英文の開催期間と都市の字の色であることに気付く。その関係から9の青はユネスコの国際的機関を表し、それに対応する7はハンブルグに51年に創設されたユネスコの教育研究所UIE (The UNESCO Institute for Education) を意味することが成人教育研究者には分かる。すなわち97は、色に注目すれば、ユネスコの教育運動とその下部機関の教育研究を象徴する。

第5回国際成人教育会議はロゴが示すように、97年に開かれ、国際的教育運動推進機関のユネスコとその成人教育研究推進機関のハンブルグのUIEの働き合いに支えられている。そのことは表題にも宣言文にもない。

ロゴはこのように見る人に学習教材として学習機能を発揮し、自己学習を成立させることができる。学習者はそれに触発され、自主的に学習をするが、ロゴの作者の教育的意図について格別意識はしない。作者は学習教材のいわば背後に隠された教師である。しかし作者はそのような教材の開発によって教育者の立場にある。いつ、だれが、どこでロゴに学ぶことがあっても、そのような学習は成立する。これも一種の生涯学習的機能といえる。ロゴは万人に開かれた教材である。

すなわち教材的なロゴは、段階的にその意味を気付かせることによって、自ずから自己学習に導き、段階を重ねさせ、その学習に気付かせて自ら意欲的に自己学習を推進するよう促す。その過程を通して学習者の自己教育力が着実に高まる。しかしロゴ自体は見る人に自由にそこから学びとらせ、一切強制も圧迫もしない。その展開は段階的であり、しかもその読取りは成人学習の基礎となる「読み書き」、「問い分析」の学習要素が働けば十分である。

「読み」とは情報のインプットであり、「書き」とはそのアウトプットであり、両者を主体的に自己のアイデンティティが媒介する。その構図はそのまま「問い」と「分析」の間にも成立する。媒介的アイデンティティが新しい発想を生む契機になり、創造的学習を導く。ロゴは読み手のアイデンティティの働きによって個性的、創造的であることを実践的に実証したい。

教育運動と教育研究に支えられる成人教育は、黄色の曲線で描かれ、運動と研究に対して当然実践を意味する。すなわち運動と研究が働き合って実践の発展を支える構図が3本の曲線

に読み取れる。3本の曲線の形と位置関係に注目すれば、半世紀にわたるユネスコの識字運動に見られるように従来教育実践は主として教育運動に支えられて推進されてきたが、ここでは教育実践と教育運動は教育研究によって媒介されて、ともに推進される新しい構図がクローズアップされる。すなわち成人教育研究が重要な位置と役割を与えられる。

教育実践が図2に見るように黄色であることによって3本の曲線の色は3原色で構成されることになる。英文の表題と照らし合わせると、成人学習は21世紀のための鍵であるとされるが、21世紀はロゴの中央の黒色の短冊型に象徴されるように、20世紀から先送りされた厳しい問題が山積みされる見通しの暗い世紀でありながら、成人学習の研究、運動、実践の3原色の働きあいによって、すべての色を自由自在に3原色を組合せて作り出すことができるから、明るい多様な彩りに包まれる様子がロゴから印象深く読み取れる。成人学習が21世紀のための鍵とはそのことを云う。

そのように3原色の組合せに注目すれば、教育実践の黄色と教育研究の赤色との混合はそれらの中間色の肌色を作り出す。人類は人種によって皮膚の色を異にすることが多い。しかし掌の色は皮膚の色の違いを超えて人類に共通にその肌色であるといえる。

そこで掌に注目すれば、右手の平の筋は、黄色と赤色の曲線が描く形であることに気付く。それは周知のようにすべてのヒトに基本的な形である。赤子は掌をしっかりと握って生まれてくる。棒を握らせれば十分に自分の体重を支えることができる。その掌を開かせてみれば、そのような筋がはっきりと見える。人類はその種に独自の機能によって道具を使い、多様な文化を創造してきた *homo faber* である。したがってその形に象徴される成人学習は、多様な文化を創造してきた道具であり、また現代社会は教育実践と教育研究の働き合いによって飛躍的な発展を遂げている。

文化を創造する成人学習は喜びである。右肩上がりの3本の曲線の構図はその喜びを表現しているといえる。成人学習は喜び、道具である。成人学習が21世紀のための鍵といわれる所以は、それが困難な課題を創造的に解決することを期待してのことである。「学習権宣言」は成人学習を人類の生き残りのために必要で不可欠な道具であるとして、基本的な権利と認め、さらに人間を客体的存在から主体的存在に変えるところから、加盟国は基本的人権として承認し、その法制化を進めるべきであると呼び掛ける。

このように会議ロゴは製作者の自由なイメージの産物ではなく、85年のパリ会議の宣言を踏まえ、当時予め2年前からUIEの成人教育専門家会議⁹⁾で基本線が論議され、その結果明らかにされた10の討議課題について5つの地域別予備会議¹⁰⁾で討議されて、予め本会議の提案が纏められていて、それについての情報にしたがって作成されたものであろう。それ故にわれわれはロゴの読取りからハンプブルグ宣言の主要事項¹¹⁾を明らかにできる。

以上の読取りを可能にしたのは、成人学習の基礎的要素の読み、問い、分析である。しかしその読取りに一貫して書くことが働いている。われわれはロゴの読取りに際して、常にロゴの

形と色の図形概念図を念頭に置いていた。すなわち大雑把な一種の地図を意識のなかに書いていることに気付く。そして概念図の曖昧さがかえって97の読取りに有効であった。

意識の概念図を実際に書いて、ロゴと比べると、3本の曲線は概念図の場合のような滑らかな線ではなく、曲線の縁が鋸状であることに気付く。そこからなぜ鋸状かの問いが新しく生まれる。その答えの手がかりを画面上に求めると、画面の中央下部に日の丸を含む加盟国184の国旗が描かれている。すべての国旗の特定はできないが、ユネスコに参加する国々であることは推定できる。もちろんすべての国旗は3原色の組合せである。

色に注目すれば参加国の国旗の色はすべて3本の曲線の3原色の組合せに収斂し、3つの色に還元される。すなわち参加国は3原色に統合される。それゆえ参加国の代表は正式には政府、その他NGO等からも構成されるが、それらの代表は3原色の曲線に実践者、研究者、支援者として参加するのである。

会議の参加者は加盟国の政府、自治体、機関、組織、団体、集団の代表として参加を求められた。そのように各種の集まりの代表の参加を表すために曲線は太さのある房の集合体のように描かれている。そのことはその反対側に置かれるユネスコのロゴについても同じであることが分かる。そこからわれわれは会議のキーワードの「参加」の原理を読み取ることができる。

成人学習に生き残りを賭ける21世紀の地球市民は、したがって組織的に、個人的に成人学習の実践、研究、運動に参加するよう会議ロゴは訴える。三者への参加が成人学習に多様な文化を豊に創造させることになる。

ここに会議ロゴが要請する成人学習は、喜び、道具、権利であるばかりでなく、地球市民としての責任分担であるといえる。われわれはしたがって成人学習の責任を分担するよう会議ロゴから要請される。とくに戦後ユネスコが精力的に取り組んできた識字と成人基礎教育などは、国連の90年国際識字年とその後10年の行動計画、アメリカの公民権運動などの社会運動にもかかわらず、21世紀にその問題を先送りせざるをえないが、それらは現代市民の社会的責任として個人と集団にその解決がうまく要請されるのである。

責任分担を要請される成人学習はしたがって生涯にわたって教育を受け・学ぶ権利の中核であり、自然権であるよりも国民的合意と承認を必要とする社会権である。国民は社会的承認の前提条件にその責任分担を果たし、多様な文化の創造に貢献することが求められる。そのような創造によって初めて学習権は社会的に承認され、さらに基本的人権として承認され、そしてそれに必要な法制化が進められる。成人学習参加による責任分担はまず成人識字と成人基礎教育に始まる。それらが当面基本的人権として承認されるべきである。

以上われわれはユネスコのホームページの画面上に提示されたすべてのデータを必要に応じて活用しながらロゴのもつ意味を、「読む、書く、問う、分ける」の4つの学習要素に使い分けて、読み取ることができた。

このようにわれわれ地球市民は教育実践，教育研究，教育運動の一つまたは複数に参加するよう求められている。そのことがロゴからのメッセージであることを学習することができた。それがロゴの学習の第1段階である。

第3節 ロゴの創造的教育

われわれはロゴの解説に当たって，このようなロゴからの要請を最初に予見していたわけではない。むしろこのロゴに導かれて，生涯にわたる教育・学習権すなわちすべてのライフステージにおける教育を受ける権利と学習する権利の基礎的要素を構成する，「読む，書く，問う，分析する」活動を駆使しながら，英文(Adult Learning: A Key for the Twenty-first Century)の表題の意味を解説することができた。

われわれはその学習実践を創造的学習とよんで差し支えないのであれば，その学習実践を学習運動に結びつけることを求めるのが，ロゴの働きであり，その媒介になるのはロゴの赤い曲線の学習研究であるから，このようにわれわれはロゴの簡単な学習実践を通して，学習研究，とくに生涯学習研究に結びつき，その研究を通してさらに生涯学習運動，すなわち例えば今日広島県に行なわれている（99年10月7～11日）第11回全国生涯学習フェスティバルに間接的に参加することになる。

そればかりでなくユネスコのロゴを媒介にすることによって，われわれは日本の生涯学習の実践と研究と運動を国際的連帯に導くことができるのである。それはその会議に代表を送ったわれわれが，このような形で一種の責任分担を果たすことになるのではないか。

この国際貢献はもちろんここで終わらない。以上に述べた会議ロゴの基礎的な創造的学習を踏まえてわれわれはその創造的学習をさらに一歩進展させることにしたい。

われわれがこの創造的学習の試みに実践的要素のみならず，研究的要素をも含むと主張するのは，その実践を通して生涯教育・学習権の基礎的要素が有効に働いて創造的学習を可能にすることを実証できるからである。

その生涯学習研究はしたがって実践によって方法論的裏付けを確実にできた。それはわれわれがロゴを見て，思い付いたことでもなく，また偶然の発見でもなく，ロゴ研究の視点・方法と点検・評価によって明らかにできた方法論的研究であるといえよう。それ故にわれわれの研究は会議の難解なロゴの単なる絵解きではなく，実践に裏付けられた実証的研究であるとともにこのような研究によって改めてそれが追体験されれば，そこに新しい創造的学習研究の進展が期待されよう。

さらに言えばこのような実証的研究がロゴに示されるように実践と運動を媒介する働きをもつのではないか。生涯学習研究にはこのような研究も無意味ではないと思われる。そしてこの実証的研究の有効性はこれを踏まえてさらに創造的学習を進めて，よりよい研究成果を産出することができれば，より確実になるであろう。われわれはそれを目指してさらにロゴ研究を進

めることにする。

第 2 章 生涯学習原理の非言語的表現

第 1 節 生涯教育・学習のメタ概念

ロゴが示す多様性尊重の成人学習原則は、社会的弱者の女性、障害者、高齢者、少数民族等に適用され、人間中心の科学技術の開発によってエンパワーメントするとともに、主としてたとえば「高齢者にも」、「高齢者でも」ではなく、積極的に「高齢者しか」、「高齢者こそ」の成人学習観を確立することである。そこに高齢者教育の創造的発想の転換がある。その根底には平和と人権尊重の原則があり、それが社会的弱者の学習保障を支える根拠となる。それはハンブルグ宣言第 22 章に引用される「サラマンカ声明」の社会福祉の統合の原理を共有し、人間にやさしい生活環境の改善運動の一環として、真に生涯にわたる学習を成立させる。したがって人権、平和、多様性の尊重の原則は生涯学習の枠組みになる。

ロゴに示されるように生涯教育・学習概念は生涯教育・学習の視野、または枠組みであり、その視野の下にあるいは枠組みの内部に従来の教育・学習を捉え直し、再編するのであり、その第一歩が 72 年東京会議の生涯教育概念、85 年パリ会議の生涯学習概念に代わって、97 年ハンブルグ会議に登場した青年・成人教育・学習概念¹²⁾の提言である。

このような人間性豊かな枠組みが成人学習を見直すのである。成人学習を創造的に見直す、そのような枠組みが生涯学習である。生涯学習ならびにその過程の生涯教育は現行の成人学習批判の根拠となる。われわれはロゴを通して成人学習への参加の在り方を創造的に見直すのである。ロゴは生涯教育・学習の継続性、創造性、統合性、等の原理を導く成人学習の改革理念である。

ロゴによって生涯教育は本来その用語の登場以来一貫して、実体概念であるよりは、現行概念を見直すために役立つ、いわばメタ概念であることが分かる。それ故に 21 世紀の成人学習はロゴが示すメタ概念の下に見直されなければならない。

成人学習はそこでは参加責任の分担とそれに基づく参加保障を求める。そこでは成人学習は単なる権利である以上に人々の地球市民としての社会的責任である。その参加責任の分担を市民の喜びとするように、環境条件の整備も求められる。そのために教育研究は教育実践に応じた責任分担の整備を教育運動に促すよう、成人学習の能力と環境の開発が求められる。

そして以上のロゴは国際的ばかりでなく、地域的にも通用する。地方政府に NGO が参画し、地域教育を推進することになる。もちろんそこでは新しく地域の特性を生かす地域教育の研究が要請される。生涯学習時代に成人教育はそれぞれの地域教育の中核的推進力となるであろう。地域教育に生涯学習の視野と枠組みが具体的に生かされる。したがって地域教育は生涯学習概念の実体化といえる。

第2節 地域教育概念のシンボルマーク

教育研究の課題は地域教育の新しい概念化であり、地域教育の適正規模、環境条件、参加保障がロゴを踏まえて検討される。教育実践は創造的学習による能力の発揮の喜びであり、その喜びを楽しさに変えとともに、社会的評価も求められる。それも成人学習の環境整備の重要な一環である。国際的ロゴの地域における実現を目指して地域教育の整備が図られなければならない。

わが国の場合生命の糧を求めて楽しげに空を飛ぶ、国定のマスコット「学びー」の視野が「生涯学習」である。その視野は地域教育批判と環境改善にどう役立つのか。学びーの生涯学習の枠組みはどのような原則であるか。そのシンボルマークはロゴの国際的原則とどうかかわるのか。地域教育の統合性、継続性、創造性の原理を踏まえて、学びーは地域づくりにどのように役立つのか、等が検討課題に数えられる。

第10回全国生涯学習フェスティバル兵庫大会テーマは『「学び～生活創造」未来を創るわたし色』とし、「成熟社会における生涯学習の未来を提言する」ために、『「創造的復興」をめざす21世紀における「学び～生活創造」の姿を』、今回の広島大会は「まなびが創る新たなかけ橋～まなぶ楽しさ体験しよう」とし、「学びとの出会いと新しい自分の発見、人と地域と学びの交流、学びのネットワークの形成、新しい時代の学びと暮らしの創造、そして未来へつなぐ学習」の5つのかけ橋をそれぞれ全国に発信するとし、両者は21世紀の生涯学習社会の構築を目指す。

それぞれ「震災からの復興」、「しまなみ海道」を地域特性に選び、前者は地域コミュニティ活動とボランティア参加を、後者はスポーツ・レクリエーション・趣味・教養の楽しさの体験を呼び掛ける。いずれも21世紀は明るく楽しく彩られて、国際的ロゴの持つ暗さはない。

それに対してユネスコのロゴはそれ自体を成人学習の教材にして21世紀の地球規模の深刻な課題解決に必要な創造的学習をホームページの画面上で体験させる。そのために案内状のロゴ、英文の配置と配色、サイズを画面に再構成する。そこにすでに創造的学習の学習教材が用意されている。それは85年パリ会議の宣言にあるように、「文化的贅沢品」ではない。

しかしながら創造的学習参加を呼び掛けるそのロゴは、英文表題の「成人学習：21世紀のための鍵」に添えられた一種のアクセサリーとしか見られていないのではないか。

他方わが国の学びピアは生涯学習都市づくりへの体験・ボランティア、事業参加を呼び掛け、学習の楽しさをPRするが、学習の権利、責任については一切語らない。このただ豊かで楽しげな学習を第三世界の人々はどう見るであろうか。

われわれの課題は会議ロゴと学びーをどう繋ぐかである。学級崩壊への風潮の中でこどもの学習は楽しさであろうか。こどもの学習の苦しさと大人の学習の楽しさの溝をどう埋めるのか。荒廃した学校で学ぶこどもは「まなびピア」をどう見るか。

「21世紀の生涯学習」を語るとき国際的視野が必要であり、その発想の転換を促すため、ユ

ネスコの会議ロゴに創造的学習の教材を掘り起こし、その実践を試みたのである。

ユネスコの生涯学習論を特集し、ハンブルグ宣言とそのアジェンダを取り上げた「21 世紀への人とライフステージを考える生涯学習社会の学術総合雑誌」とされる『社会教育』誌の 99 年 2 月号の表紙に白抜きのユネスコのロゴと右肩に地球を象徴する球形に帽子の庇状に **LEARNING FOR LIFE** のメッセージを綴る生涯学習ロゴが書かれているが、そこから創造的学習の引出しは容易でない。とくにそれと会議ロゴのもつ情報格差は大きすぎる。

第 3 節 ロゴの非言語的表現の効用

われわれは会議の案内状の表紙の情報なしに画面を見る人は、画面上にほとんど視野の外に置かれた小さなロゴに気付くこともなく、また気付いてもユネスコのロゴほどに関心もなく、その上解読が困難なため、通り一遍に 97 の開催年をそこに読み取る程度で満足するくらいであろう。まして作者の制作意図、その解説を通して新しい 21 世紀のための成人学習が自ら実践できることに気付く人は稀ではないか。

われわれは案内状の表紙に関心を持ったとき、デザインの面白さに気付いたが、そこから新しい成人学習論を展開し、表題に豊かな意味を付与できるとは考えなかった。しかし画面からロゴの色が判明したことによって、表紙と画面のイメージの差に気付いて、成人学習の実践を通して創造的学習論を実証的に導きだすことができたのである。

その際われわれは画面のロゴを研究対象にして、案内状の作者紹介文を用いず、一般の人々と同じ条件でロゴの解読作業に着手し、成人学習の基礎的要素のもつ創造力を実証するよう慎重にロゴの解読を試み、一定の成果を挙げることができた。それは成人学習の創造力を基礎的な面において明らかにする実践的検証でもある。

また案内状と画面上に明示された **adult learning: a key for the twenty first century** と **ADULT LEARNING: A KEY FOR THE 21 st CENTURY** の表題は最終第 6 版の「成人学習に関するハンブルグ宣言」の表紙にはなく、その文意も主文にあたる第 2 章においては **it (adult education) is a key to the twenty-first century** となり、若干のニュアンスのずれが生じた。それに伴って会議ロゴとユネスコのロゴは姿を消し、ユネスコ第 5 回国際成人教育会議 (CONFINTEA V)、1997 年 7 月 14-18 日、ハンブルグ (英文) と記された。

この正式宣言文 (英文) の特色は慣例により他の 5 ヶ国語に翻訳されるが、表題の成人学習について下の欄外に注記され、[“adult learning” の用語はそれぞれの言語をもつ地域社会に慣習的に用いられる表現を考慮すれば他の言語において異なって翻訳される] としている。すなわち必ずしも英語の「成人学習」では国際的に意味が統一できないことを付言する。このことによってわれわれは改めて非言語的表現の普遍的ロゴがもつ意義を強調したい。

ユネスコの会議の宣言においてこの様に英語表記上の注記が付くことは異例である。その成人学習は教育用語の基本であるだけに、その事態はまず成人学習研究に課せられる重要な課題

のひとつになる。そのことは類似概念の生涯学習についても同じことがいえる。英文の表題への多言語的接近に伴う諸問題を、会議ロゴの非言語性は免れている。そのロゴの普遍性とあらゆる言語からの接近可能性は特筆されてよい。

とくにロゴへの学習による接近においてそれぞれの母語による表現は文字、音声を問わず、まったく自由である。どの言語の地域住民も自由に接近し、自らの言語で語り、文字化できるのである。

そのロゴに多言語的、多文化的接近が可能であることは、ロゴの学習によって多言語的多文化的社会、地域、そして世界を統合することができることを意味する。ロゴの意味を自らの言語、文化を通して学習することによって、成人学習に関するハンブルグ宣言が分かることは、ロゴの学習が多文化性の統合を可能にする。

ロゴは特定の言語表現に拘らず、また逆に特定の文化をその異質性によって強制的に排除することもない。またロゴは多様な言語環境に対して広く開かれている。したがってロゴは多言語・多文化的学習社会のシンボルマークであり、その統合の旗印になる。そのことはもちろんわが国の地域社会においても十分成立する。

第4節 生涯学習原理

そのように会議ロゴが多言語的、多文化的接近に対応するのは、そのもつ固有の統合性による。それは生涯学習の原理として機能できる。それは上述の多様な接近に対応できる統合性をもつ。ロゴはそれ故に普遍性と持続可能性とともに統合性を原理とする。

もちろん会議ロゴは97年の会議に固有のものであり、今後の時代と社会の変化に応じて、修正あるいは再編成されるはずであり、またつぎのロゴに継承・発展されるかもしれない。ロゴの場合文章よりも弾力的な対応が可能であり、それぞれの時代と地域によって固有の旗印に変わることもあるであろう。

成人学習の契機となるロゴは創造的学習実践を導く案内になり、85年会議の学習権宣言を実証的に継承し、創造的学習を可能にする。そしてロゴは会議の趣旨を表すから、「成人学習に関するハンブルグ宣言」と深く関わる。

ハンブルグ宣言は本文が27章から成立し、第1・2章が主文にあたり、続く25章が5章づつ5部に分けられ、部ごとに小括される。第7（生涯学習の枠組みの内部で成人学習の可能性と未来を構想する）・12（生涯教育・学習権が読み書き、問い分析の基礎的権利、資源入手と個人的・集团的スキルと能力を発達・実行する基本的権利）・17（生涯学習過程としての成人環境教育）・22（サラマンカ声明に則った障害者との共生）・27（成人学習の責任分担）章がそれに該当する。それらの小括は、矛盾なくロゴを直接的、間接的に肉付ける。もちろんその他の章も小括とともにロゴの肉付けに参加するが、以上の主な章についてロゴとは矛盾がないことが容易に明らかにできる。

ロゴはしたがってハンブルグ宣言によって肉付けされ、ハンブルグ宣言は逆にロゴの枠組み(framework)に位置付けられるから、ロゴは成人学習に関するハンブルグ宣言の枠組みである。そしてハンブルグ宣言の成人学習は生涯学習の枠組みの内部で概念化されるから(ハンブルグ宣言第7章)、ロゴは生涯学習の枠組みとしてハンブルグ宣言の生涯学習概念の図式化であるといえる。

すなわちロゴはハンブルグ宣言の成人学習を統合する枠組みであり、宣言の統合といえる。それが生涯学習から失われた統合性の原理を具体的に復活した図形である。ロゴはまた生涯学習の過程である生涯教育の統合性をそれによって成立させるのである。

したがってロゴは非言語的生涯教育概念である。その概念の視野のもとに現代教育は批判される。ロゴは教育批判のための根拠であり、それを見直すための共通の概念である。その共通性¹³⁾は上述のロゴのもつ非言語的性質によって担保される。

結びにかえて

前述のようにロゴは3原色の3本の曲線によってハンブルグ宣言の成人学習の多様性をそこから導きだすことができる。その組合せは多様な働きが十分期待される。それ故に創造的成人学習はこのロゴを中核として統合され、そこには生涯学習の諸原理を読み取ることができる。その読取り自体が生涯学習の視野からその枠組みによって概念化された成人学習である。そこにおいて創造的成人学習と生涯学習は相互に概念化されるのである。

ロゴは生涯学習概念のシンボルであり、その図式化である。生涯にわたって統合された学習は具体的にロゴにおいて肉付けされた。生涯学習の統合性はロゴを創造的に学習することによって具体的、実践的に実証される。その創造的学習は学習権宣言の学習権の定義から導かれる学習活動を基礎とし、その基本と相俟って、ロゴの意義を解明できた。

すなわちロゴはそれを解明する成人学習に創造力を付与した。成人学習はロゴの学習を通して創造力を豊にし、創造的学習になった。その創造的学習がロゴの生涯学習原理を明らかにできたのである。

ハンブルグ会議ロゴは転換期の成人教育¹⁴⁾を表すとともにその転換を導く生涯教育概念のメタ概念的性格を表すのである。ロゴは生涯教育の統合性、持続可能な発展性、創造性、地域性等を表す。

ロゴの3原色、掌の筋、数字の97が示すのは、統合性であり、成人学習の理念型である。その統合性によって多様性が普遍性と個性を媒介するものとして尊重される。成人学習を表すロゴは創造的に読み取られ、その実践性が実証される。そして21世紀への鍵として持続可能な発展性が担保されるのは、生涯教育の継続性によってである。

ロゴは教育運動を方向付けるとともに研究の到達点と今後の研究課題を明らかにし、そして

教育実践への主体的参加を多様に呼び掛けるのである。

そしてロゴにおいて成人教育の研究，実践，運動を統合的に表すことによってそれを視野に入れた生涯教育・学習の統合性を示唆するのである。

われわれが成人教育・学習を生涯教育の理念の下に発展させようとするならば，このようなロゴが必要であり，その発展を持続可能にし，方向付けるためにはロゴなしには不可能であり，ロゴはしたがって成人教育の発展のためには必要・不可欠である。

われわれの研究自体も成人学習の範疇の下に入れてしかるべきであろう。それとともに成人教育の概念もより新しい形として登場し，教育自体の位置付けと役割と意味付けはそれによって創造的な転換を遂げ，それ自体が見直されることになる。

ロゴは 97 年の時代精神を反映し，20 世紀から 21 世紀への時代教育の転機に立ち，生涯教育・学習の視野の下に 20 世紀の教育を見直し，新しく 21 世紀の青年・成人教育・学習概念を提示する。それは時代の転機を表象するロゴであり，生涯教育の政策理念を生涯学習の運動理念に転換させ，生涯教育・学習の概念化過程の第一歩となる。

ハンブルグ会議の性格はそれを集約する成人学習宣言に示され，ロゴはその性格を表象することを目指す。それをロゴの共通理解としながら，ロゴはそれを見る人のアイデンティティを生かす個性的な意味付けも可能であり，そしてその意味は各自の教育実践を通して具体的に明らかにされる。

97 年のロゴは決して一過性のもので終わらない。それから多くのメッセージを引き出し，21 世紀への鍵として成人教育，さらに 21 世紀のための鍵となる成人学習をイメージする人たちに生涯教育の本質としてそのメタ概念に気付かせる。

ロゴはまた非言語的文化，音声言語的文化に重要性に気付かせる実践的，体験的教材である。われわれは徒に文字文化の中で表面的な文字を概念として操作するばかりで，その概念を当の生涯教育の場合のように理念のままに概念操作しているだけかもしれない。

コンピューターの画面において会議の主要課題を中心にしてその周辺にアクセサリーのようにユネスコと会議のロゴと国旗などを配するのは，所詮文字の表題に力点を置くためである。しかしわれわれはあえてロゴの図柄を中心にして，表題とユネスコのロゴと開催期間・都市の表示を配する図柄として把握することができた。

非言語的表象のロゴによって普遍的な成人学習の在り方が明らかにされる。個性，多様性，普遍性の関連，機関団体の責任分担体制，研究・運動・実践への参画・参加，NGO の参加，成人学習の創造性，実践性，統合性の復権，地域性，世代性，社会的弱者の主体性等がそれである。

〔注〕

- 1) 「学」を上下に解字して、上は楽しげに生命の糧を集めて飛ぶ蜜蜂の子の3本の触角を付けた頭部を表す。それは学習の楽しさとニーズを表すように見える石ノ森章太郎のデザインである。それは「生涯学習フェスティバル開催要綱」平成元年8月文部大臣裁定の第7項シンボルマーク等に規定される。その使用は「生涯学習のマスコットマークの使用に関する取り扱い要領」平成2年1月生涯学習局長決裁による。
- 2) 拙稿「京都・竜安寺の生涯教育論」『日本仏教教育学研究』第6号, pp. 51-9.
- 3) to read and write, to question and analyse.
- 4) それを末尾に置く85年パリ会議の最終報告書には「生涯教育」, 「生涯学習」の用語はいくつもある。
- 5) その概念は一例のみ生涯を通しての学習の枠組みとしての意味に登場する。
- 6) それは全27章から成立し, 第1・2章は主文にあたる。
- 7) 『日本社会教育学会第43回発表要旨録』。
- 8) International Journal of Lifelong Education 巻頭言とフレイレの追悼文。
- 9) 『生涯学習・社会教育学研究』, 第22号, 97年, 報告「21世紀への鍵としての成人学習ー第5回国際成人教育会議報告」, 佐藤一子, 東京大学大学院教育学研究科, p. 67.
- 10) 前出会議案内状。
- 11) 主文に続く5部の各小括の章。
- 12) ハンブルグ宣言第10章に「生涯を通じての学習の概念のうちにある成人教育に新しく接近することによって」と一ヶ所だけに生涯学習概念の用語が残されているが, 文脈上これは第7章の「生涯学習の枠組みのうちに」と同じ意味である。
- 13) ハンブルグ宣言第2章。
- 14) International Journal of Lifelong Education V 16, No 4, 巻頭言。

(たにかわ もりまさ 生涯学習学科)
(1999年10月15日受理)